冊

六年

画数 5

筆順 冂 冊 冊

オン サツ・サク

クン

成り立ち

紙がまだ発明されなかった昔は、竹を長細く割ったものをうすくけずり、これに字を書きました。これを〝竹簡（年6 853）〟と言います。昔の〝書物〟は、この竹簡を革ひもでつなぎ合わせて〝巻物〟にしました。

冊は、「竹簡を革ひもでつなぎ合わせた形」を表した字で、〝書物〟のことを表した字です。例書冊、冊子、分冊、大冊、別冊。

「竹簡のように細長い紙」のことを表します。例短冊。

また、本を数える時に使います。例一冊、二冊。

〔冊の漢音はサクで、サツは慣用音である。なお、呉音はシャク〕

使い方

▽ぼくは雑誌を取っています。本誌も面白いですが、別冊の付録が楽しみです。

▽七夕の日に妹と二人で竹を切って来て、短冊を飾りました。短冊にはそれぞれの願い事を書きました。お星さまも作って飾りました。久しぶりの晴れた空に星が見えて、願い事がかなうような気がしました。

熟語例

▽書冊（書物。本のこと。）

▽冊子（書物）

▽分冊（一つの本を何冊かに分けること。また、その分かれた本）

▽大冊（大きな本。厚い本。「わたしは『戦争と平和』という大冊を読み上げました」などというふうに、つかいます。）

▽別冊（雑誌や全集などで、付録などとして別に一冊として編集した本）

▽短冊（細長く切って、字を書いたり、何かに結びつけたりする紙。また、とくに、和歌や俳句を書く、細長い厚紙をさします。）

蚕

六年

画数 10

筆順 ⺈ 天 吞 蚕

オン サン

クン かいこ

成り立ち

〝天〟という字と、〝虫〟という字とを組み合わせて作った字です。

昔、大そう貴重な物とされた絹糸を作り出す虫なので「天から授けられた虫」という意味で作った字です。

〝かいこ〟を表した字です。

〝かいこ〟とは、〝飼い子〟という意味の言葉です。〝飼う〟とは、「人が動物に食べ物をやって育てる」ことです。蚕の食べ物である〝桑〟の葉を採って来て、温度や湿度にも注意して大事に育てました。だから、〝飼い子〟と言ったのです。色が白いので「お白さま」とも言います。

使い方

▽おばあちゃんが子供のころは、いなかでは、ほとんどの家で蚕を飼っていたそうです。朝起きると、蚕の食べる桑の葉を摘みに行き、それから学校へ行ったそうです。一番忙しくなる頃の一週間は、養蚕休業と言って学校が一斉にお休みになり、朝から晩まで仕事をしたそうです。

熟語例

▽養蚕（蚕を養い育てること。絹糸を取るために蚕を飼うことです。繭が作られるまでの一週間は、蚕が桑を食べる量も多くなり、大変忙しく、小学生でも働かなければ間に合わず、学校は休業しました。）

▽蚕室（蚕を飼うへやのこと。）

▽蚕種（蚕の卵のこと。）

▽蚕紙（蚕の蛾に卵を生みつけさせた紙。蚕卵紙）

▽蚕糸（蚕の作った繭から取れた糸のこと。〝絹糸〟のことです。）

▽蚕食（蚕が桑の葉を食べるように、他人の財産や領地を、はしから次々に奪って行き、すっかり奪い尽くすことを言います。）